

- 国語科の授業のアイデアを広げたい!
- 具体的な実践事例を知りたい!
- 授業の導入に使える小話はないだろうか?

そんな先生方のために、秀学社国語科通信では国語科の先生方に参考にしていただける情報をお届けしています。

俳句の表現の仕方に注目してその情景や作者の心情について読み解き、自分が感じたことをまとめよう。

東村山市立東村山第二中学校
神田 郁佳
(※令和七年度所属)

3 時間目	2 時間目	1 時間目	授業の流れ
<ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ俳句を選んだ者同士、また、違う俳句を選んだ者同士で鑑賞文を読み合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループ内で、各自が担当する俳句を決める。 ・ 四マス×四マスのマンガラートを使い、表現の工夫について評価し、鑑賞文を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 俳句の基礎知識を確認する。 	

「俳句」とは、日本の定型詩の一つで、季語および五(上)の句・七(中)の句・五(下の句)の十七音を主としたものである。短い字数の中に作者の工夫が施されており、私たち読者はそれを自由に味わい鑑賞できる。

本単元では、俳句について基本的な知識を確認した後、教科書に掲載されている俳句を六〜七人のグループで分担し、表現の仕方を評価して鑑賞文を書くことを単元のゴールとした。

	(時間)夜				冬の夜は静か(夏の夜と違ってセミなどの虫の鳴き声もない)	
冬の星空は空気が乾燥し、水蒸気がすくないから、星がきれいに見える	星空				無音	場所は田舎のようなひっそりとしたところ(静寂の夜は明かりがついているから、星空は見えにくいと思う)
		←			→	
			星空	無音		
			瀑布	鯨飛ぶ		
		←			→	
規模の大きな滝のこと					季語(冬)	
滝は水が流れているところのこと(滝が流れているように流れ星が流れていたり、オーロラが流れている)	瀑布				鯨飛ぶ	空に鯨がいることはない(作者が見た何かを鯨に例えている)
この俳句の季節は冬、オーロラは主に秋から冬にかけて見られる				大きな魚が飛んでいる(大きさが大きいほど水しぶきはたくさんとぶ)	見本句を「鯨飛ぶ」と書いているのはなく、鯨を見たときの肉体的な思わず興奮を失ふような、想像を誘っているのかもしれない	

▲実際の生徒のマンガラート

中学校学習指導要領(平成二十九年告示)解説 国語編(百二十八頁)には、「表現の仕方について評価するとは、様々な表現の仕方が、文章の内容や書き手の考えを正確に伝えたり印象付けたりする上でどのような効果を上げているかなどを根拠に基づいて判断し、その意味などについて考えることである。」とある。そこで本単元では、生徒が、俳句における表現の仕方についての効果をもっているかについて考えやすいよう、マンガラートを使い思考を促す工夫をした。

